

説 教

聖日礼拝

北浜チャーチ

黒田 禎一郎

2023年8月6日

主 題：「ヨハネの勧めのことば」

—真の交わり—

テキスト：第3ヨハネの手紙5～8節

はじめに

- ・おはようございます。

- ・使徒ヨハネは、愛するガイオが神に忠実に従い、真理の道を歩んでいることを知り、本当に喜びました。彼は次のように述べました。

3ヨハネの手紙

1:4 私の子どもたちが真理に歩んでいることを聞くことほど、私にとって大きな喜びはありません。

- ・私たちキリスト者にとっても、真理の道を歩み、神の栄光が現されることは大きな喜びです。そして、そのような信仰生活を過ごしたいと切に願います。
- ・ヨハネは、ガイオの忠実な信仰生活から、キリスト者が果たすべき大切な信仰姿勢を述べました。それが今日のテキストです。 2点

大切なポイント**1. ガイオの信仰姿勢**

1) ヨハネのことば

- 1:5 愛する者よ。あなたは、兄弟たちのための、それもよそから来た人たちのための働きを忠実に行っています。
- 1:6 彼らは教会の集まりで、あなたの愛について証しました。あなたが彼らを、神にふさわしい仕方で送り出してくれるなら、それは立派な行いです。
- 1:7 彼らは御名のために、異邦人からは何も受けずに出て行ったのです。
- 1:8 私たちはこのような人々を受け入れるべきです。そうすれば、私たちは真理のために働く同労者となれます。
- ・このヨハネのことばには、当時の教会（集会）に集うキリスト者の基本的事項が含まれています。まだ教会組織や制度等が作られてなかった時代、キリスト者はどのように互いの交わりを持っていたのでしょうか。先ずその点について、考えてみましょう。

2) 初代教会時代

- ・初代教会時代は、巡回伝道者という霊的指導者が家の教会を訪ねては、神のみことばを説き明かし、イエス・キリストにある信仰生活の幸いを教えていました。彼らは家（集会）から家（集会）を訪ねて、キリストの再臨を前にして、みことばを通して兄弟姉妹を励ましていました。キリスト者は彼らを通して、慰めと力を受けていました。
- ・そのような社会で、巡回伝道者や旅人を「もてなす」ことは、互いの「交わり」を深めることにおいても大切なことでした。
- ・ガイオは、愛の奉仕において実に模範的な「もてなし」をした人でした。その「もてなし」とは、どのようなものであってでしょうか。ここに文脈的理解が必要です。

① 先ず、巡回伝道者はキリストのために全てを捨てて、生涯を神に捧げた人でした（献身）。彼らには、給料や賃金という約束は全くありませんでした。彼らは未信者から経済的援助や、いかなる援助も受けていませんでした。

- ・それは「金儲けのためか」と思われないうちに、大切なことでした。伝道者たちの信仰は、全能の神が必要は満たしてくださるというものでした。

② ヨハネは、そのような主の働き人を、祈りと共に経済的にも支えることは、大切な働きであると教えました。ガイオは確かにその点において、幸いな「もてなし」をしました。

- ・このような信仰から生まれる「もてなし」は、初代教会時代の信仰の基本的事項でした。

ローマ 12 章には次のように記されています。

12:13 聖徒たちの必要をともに満たし、努めて人をもてなしなさい。

- ・イエスもまた、御国に入る者の幸いについて次のように言われました。

マタイ福音書 25 章

25:35 あなたがたはわたしが空腹であったときに食べ物を与え、渴いていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、

25:36 わたしが裸のときに服を着せ、病気をしたときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからです。』

25:37 すると、その正しい人たちは答えます。『主よ。いつ私たちはあなたが空腹なのを見て食べさせ、渴いているのを見て飲ませて差し上げたでしょうか。』

25:38 いつ、旅人であるのを見て宿を貸し、裸なのを見て着せて差し上げたでしょうか。』

25:39 いつ私たちは、あなたが病気をしたり牢におられたりするのを見て、

お訪ねしたでしょうか。』

25:40 すると、王は彼らに答えます。『まことに、あなたがたに言います。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、それも最も小さい者たちの一人にしたことは、わたしにしたのです。』

- ③ 巡回伝道者や旅人への「もてなし」は、単に霊的、経済的な意味で大切であっただけではありませんでした、彼らは兄弟姉妹として互いに「**交わり**」を深めました。聖徒たちは聖霊降臨直後の教会のように、持ち物を互いに共有し合い、交わりを深めていました。
- ・「**交わり**」(ギリシャ語：コイノニア:koinonia)とは、「共有する、分かち合う」という意味です。ドイツ語では、「交わり」をGemeinschaft(ゲマイン・シャフト)と言います。“Gemein”は、共有、分かち合いという意味です。シャフトはその名詞形です。そこで教会を“Gemeinde”(ゲマインデ)と呼びます。共有、分かち合いの場、それがキリスト教会です。
 - ・初代教会時代、主にあるそのような「**交わり**」はキリスト者にとって自然なことでした。彼らはキリストにある幸いを「**交わり**」を通し、信仰を深め合いました。ヨハネが愛したガイオは、その意味で実に忠実な兄弟でした。ガイオのような信仰姿勢は、今も変わらない聖書が教えるキリスト者の姿です。

2. 聖書が教える「交わり」

- ・ヨハネは愛するガイオに言いました。

3 ヨハネの手紙

1:2 愛する者よ。あなたのたましいが幸いを得ているように、あなたがすべての点で幸いを得、また健康であるように祈ります。

- ・初代教会時代の特徴の一つは、主にある「**交わり**」でした。その交わりには、大変大切な意味が秘められていました。聖書はその点について、どのように教えているのでしょうか。私は少なくとも3点挙げてみます

1) 努めて人をもてなさい

ローマ12章

12:13 聖徒たちの必要をともに満たし、努めて人をもてなさい。

- ・第一テモテ3章2節には、次のように記されています。

3:2 ですから監督は、非難されるところがなく、一人の妻の夫であり、自分を制し、慎み深く、礼儀正しく、よくもてなし、教える能力があり、

- この文脈では監督（長老）、すなわち教会指導者の必要要素の一つに、「もてなし」が上げられていることに注意してください。指導者はじめキリスト者は、互いに「もてなし」を通し、主にある「交わり」を深めることが大切でした。

2) 「もてなし」は「必要の満たし」である

- 先ほど引用したマタイ福音書 25 章で、イエスはさらに次のように言われました。 **マタイ福音書 25 章**
 25:42 おまへたちはわたしが空腹であったときに食べ物をくれず、渴いていたときに飲ませず、
 25:43 わたしが旅人であったときに宿を貸さず、裸のときに服を着せず、病気のときや牢にいたときに訪ねてくれなかった。』
 25:44 すると、彼らも答えます。『主よ。いつ私たちは、あなたが空腹であったり、渴いていたり、旅人であったり、裸でいたり、病気をしていたり、牢におられたりするのを見て、お世話をしなかったのでしょうか。』
 25:45 すると、王は彼らに答えます。『まことに、おまへたちに言う。おまへたちがこの最も小さい者たちの一人にしなかったのは、わたしにしなかったのだ。』
 25:46 こうして、この者たちは永遠の刑罰に入り、正しい人たちは永遠のいのちに入ります。』
- ここで教えられることは、「もてなし」は、キリストご自身に「もてなし」をすることであることです。ですから、勝手に手抜きをするのではなく、万事をご覧になっている神の前で、いつも従順であることは大切です。
- 聖書が教える「もてなし」は、キリストご自身をもてなすことでもあります。ここに私たちの信仰の正しい姿が写り出されてきます。

ヘブル人への手紙 13 章

- 13:1 兄弟愛をいつも持っていなさい。
- 13:2 旅人をもてなすことを忘れてはいけません。そうすることで、ある人たちは、知らずに御使いをもてなしました。
- 私たちも、そのような「もてなし」をしたいものです。

3) 「もてなし」の目標はどこに？

- 「もてなし」により、互いに「交わり」が与えられます。そして、そのゴールは「キリストのからだ」に属する聖徒が、「一つからだ」につながることを意味しています。
- 私たちは神の家族の一員です。それぞれは各器官です。かしらはキリス・イエ

スです。キリスト者は、「キリストのからだ」の器官として、「一つ」とされるという目標（ゴール）があります。それはキリスト者の特権でもあります。

- 使徒パウロは次のように述べました。

第一コリント人への手紙 12章

12:13 私たちはみな、ユダヤ人もギリシア人も、奴隷も自由人も、一つの御霊によってバプテスマを受けて、一つのからだとなりました。そして、みな一つの御霊を飲んだのです。

12:26 一つの部分が苦しめば、すべての部分がともに苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分がともに喜ぶのです。

12:27 あなたがたはキリストのからだであって、一人ひとりはその部分です。

- 私の好きな讃美歌ですが、英語圏でよく賛美される名曲があります。

“We Are One In The Spirit” (Peter Scholtes,1966)

We Are One In The Spirit
 We Are One In The Lord
 And We Pray That All Unity
 May One Day Be Restored
 And They'll Know We Are
 Christians By Our Love, By Our Love;
 Yes, They'll Know We Are Christians
 By Our Love!

和文歌詞 「讃美歌21」 417番:「聖霊によりて」

聖霊によりて われらひとつ、
 主により祈るわれらひとつ、
 世界がひとつになるときまで。
 ともに生き ともに愛しつつ、
 示そう 神のみわざを

- 私たちキリスト者は、イエス・キリストによって、神の家族の一員とされました。天の御国に入る神の家族の各器官です。互いに愛し合い、互いに結ばれ、互いに交わりを持ち、互いに「もてなし」を実践することによって、同じよう目標を持つ神の共同体であることが実現されます。なんという幸いではありませんか。

| |
|-------|
| ま と め |
|-------|

主 題：「ヨハネの勧めのことば」

—真の交わり—

- ・今朝も、主様は私たちにお語りくださいました。ヨハネが愛したガイオは、神に忠実な聖徒でした。私たちのお手本とも言えましょう。彼のストーリーは今の時代に至るまで、今日も語り継がれてきました。感謝です。
- ・最後に、次の聖句でメッセージを終わります。

へブル人への手紙 13章

13:1 兄弟愛をいつも持っていなさい。

13:2 旅人をもてなすことを忘れてはいけません。そうすることで、ある人たちは、知らずに御使いをもてなしました。

* God bless you!